

平成30年緑化推進運動功労者

[個人]

いしした てつお
石下 哲雄

(石川県輪島市)

ふじい あやこ
藤井 絢子

(滋賀県守山市)

よしだ ひろみ
吉田 博美

(福岡県宗像市)

はしかき まさとも
橋柿 正與

(熊本県宇城市)

[団体]

さっぽろしりつじょうざんけいちゅうがっこう
札幌市立定山溪中学校

(北海道札幌市)

とうきょうとすいどうきやく た ま がわすいげんしんりんたい
東京都水道局 多摩川水源森林隊

(東京都西多摩郡奥多摩町)

とくていひえいりかつどうほうじんさがみはら
特定非営利活動法人相模原こもれば

(神奈川県相模原市)

ナチュラルガーデンクラブ

(新潟県見附市)

きりんびーるかぶしきがいしゃ こうべこうじょう
麒麟麦酒株式会社 神戸工場

(兵庫県神戸市)

だいせん いくせい かい
大山ブナを育成する会

(鳥取県米子市)

ひがしひろしましりつとよさかちゅうがっこう
東広島市立豊栄中学校

(広島県東広島市)

こうえきざいだんほうじん みどり きょうかい
公益財団法人おおのじょう緑のトラスト協会

(福岡県大野城市)

かいどう じっこういんかい
コスモス街道づくり実行委員会

(佐賀県武雄市)

いしした てつお
石下 哲雄

石川県輪島市

<功績の概要>

同氏は、昭和30年に石川県立農業講習所を卒業して以来、所有山林約70ha(うち人工林約30ha)を経営し、石川県の県木であるアテ(ヒノキアスナロ)林業を実践してきた。

これまで、アテ林業は、伐期まで80年～100年を要すると考えられてきたが、これを何とか短期間で収穫ができないかと考え、アテの親木から伏条取り木により子木・孫木を仕立て、収穫を繰り返す「一世代一伐期柱材生産林業」を確立した。

さらに、様々な苗木の生産方法を試み、アテ幼木の枝先を環状剥皮し、ミズゴケを巻きビニールの袋を被せることにより発根させるアテ苗木の「空中取り木法」を開発した。この生産方法は、苗木生産期間の大幅な短縮と苗圃が不要となり、植栽後の成長も良好なことから、アテ苗木生産の革命的な技術として、現在では能登地方に広く普及している。

また、県下の林業団体や森林組合、中・高校、さらには県外へも本業の傍ら講師として出掛け、すぐれた育林技術の普及を図ってきた。

平成5年に「石川県健康の森」総合交流センターの館長に就任後も、来館者への奥能登の森林文化や林業技術の紹介に意を注ぎ、特に子どもたちへの森林環境教育活動や体験活動の指導に尽力している。

ふじい あやこ
藤井 絢子

滋賀県守山市

<功績の概要>

同氏は、昭和50年代から、富栄養化する琵琶湖の水環境再生に向けた“せっけん運動”の担い手として滋賀県から全国、そして海外にも伝える伝道師的役割を果たしてきた。

また、全国初の環境生協の理事長として、平成以降、「資源循環型社会」の形成を目指して、ナタネを活かした新たな資源循環サイクルを構想し、平成10年には滋賀県愛東町(現東近江市)において「愛東イエロー菜の花エコプロジェクト」を開始した。本プロジェクトは、休耕田や転作田で栽培したナノハナから食用油をつくり、給食などで使用した後の廃食油をバイオディーゼル燃料として再利用するという、持続可能な地域資源の循環や地域の社会モデルを構築するものであり、環境問題の解決のみならず、観光資源や特産品開発などの波及効果に結びついている。

プロジェクトは共感を呼び、取組が全国各地に広がったことから、全国の多様な取組の情報交換、交流の場として、平成13年4月に「NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク」を設立し、現在も代表として活動している。

さらに、新たな取組として、東日本大震災以降、被災地支援にも活動の幅を広げ、被災地のNPO法人と協力し、耕作放棄地が増えている福島県の南相馬市・須賀川市をモデル地域として、ナタネによる農業復興に取り組んでいる。

よしだ ひろみ
吉田 博美

福岡県宗像市

<功績の概要>

同氏は、平成18年から市民団体「おなかつ水と緑の会」に所属し、花と緑の豊かな地域づくりのため、市民花壇3か所の運営管理を中心となって行い、地域緑化に貢献している。

また、「一年中楽しめる開かれた庭づくり」に本格的に取り組み、市民が花や緑の美しさ、大切さを享受する場として、自宅周囲1,200㎡を開放、平成20年にはオープンガーデンを開始し、現在、多数の市民が来場している。

平成23年には、絶滅危惧種に指定されている^{おなかつ}宗像市の花「カノコユリ」が宗像固有種と確認されたのを契機として、「おなかつ水と緑の会」が宗像固有種の保存・増殖を行うこととなった。それに伴い、平成24年から同氏が中心となり市民を対象に種まき講習会・球根植え替え講座やカノコユリ鑑賞会等を開催し、「カノコユリ」の保存・増殖のための市民応援団づくりを始めた。

さらに、カノコユリの保存・拡大のために専門の「宗像カノコユリ研究会」を主催し、100名を超える人材が育ち、地域の花づくり・緑化推進の拡大に貢献している。

[個人]

はしかき まさとも
橋柿 正與

熊本県宇城市

<功績の概要>

同氏は、平成3年の長崎県雲仙・普賢岳災害を機に、趣味であったアマチュア無線の仲間と、非常災害時における早期救助活動等を行う「NPO法人災害通信ネットワーク」を発足させ、理事長に就任した。当該団体は、環境の保全として植林活動を行う目的も併せ持ち、雲仙・普賢岳噴火の終息宣言を受けた平成8年からは、会員らと共に緑が失われた山腹の植林に取り組み、保育作業も継続的に実施、現地に緑の森を蘇らせた。

また、「菊池みどり世紀の森づくり推進会議」や「森林ボランティアくまもと」の発足に伴い、代表者等に就任。関係者との連絡調整や会の運営に尽力し、都市住民が参加できる企画や市民が利用できる憩いの場を整備するなど、森林ボランティアによる森づくり活動の先駆的な取組も行っている。

次世代の森づくりを担う人材の育成にも力を注いでおり、平成21年には緑や森林に関心を持ってもらうため、地元小学校に「緑の少年団」を発足させ、育成会長に就任した。

これら多くの団体の立ち上げに関わり、技術指導のほか、森林の重要性についての普及や啓発を行うなど、森林ボランティア団体の指導者としての功績と取組は顕著であり、他の団体や指導者の模範となっている。

さっぽろしりつじょうざんけいちゅうがっこう
札幌市立定山溪中学校

所在地 北海道札幌市
代表者 校長 たか や よしひと 高谷 義仁

＜功績の概要＞

同校は、豊かな自然に囲まれた自然環境を活かし、この地域でしかできない特色のある活動を実践してきた。

昭和25年から、国有林において学校部分林契約を締結し、植林・下刈・林業体験等を実施し、昭和60年の学校部分林伐採後は、その周辺の森林を活用した動植物観察や環境体験学習など様々なフィールドワークを実施してきた。平成22年からは、同校裏庭苗圃で自ら育苗した苗木を植栽し、学校林として森林を育成する活動を展開するなど、積極的な森林環境教育の取組は、他の学校の模範となっている。

近年では、森林と人の生活との関係を学ぶため、ダム、発電所等の見学や定山溪地域の成り立ちについての学習など、森林内での学習に留まらない活動の展開や、野生生物調査の結果を観光協会に提供・配布することで観光振興の一翼を担うなど、地域との連携を築きながら地域活動を推進している。

森林学習で学んだ成果については、積極的に発信・発表を行ってきており、平成26年度の「全日本学校関係緑化コンクール(学校林等活動の部)」の準特選受賞をはじめ、様々なコンテスト、発表会などで受賞するなど高い評価を受けている。

同校が継続的に取り組んでいる環境教育活動は、地域住民の環境の保全に向けた意識の高揚、地域の森林づくり活動を担う人材育成に大きく貢献している。

[団 体]

とうきょうとすいどうきょく た ま がわすいげんしんりんたい
東京都水道局 多摩川水源森林隊

所在地 東京都西多摩郡奥多摩町

代表者 東京都水道局長 なかじま まさひろ 中嶋 正宏

＜功績の概要＞

東京都水道局は、都独自の水源である多摩川上流域において、その面積の約5割(約 23,000ha)を水道水源林として自ら所有し、直接管理している。一方、同流域に水道水源林とほぼ同じ面積で広がる民有林の中には、林業不振等により手入れ不足の森林がある。このような森林では、降水により土壌浸食が発生し、河川や小河内貯水池への土砂流出が懸念されていた。

そこで東京都水道局では、平成 14 年、ボランティアと一体となって民有林を再生する「多摩川水源森林隊」を設立し、これまでに 262.51ha(東京ドーム 55 個相当)の民有林を緑豊かな森林に再生してきた。この活動を通じて多くの都民に「良質な水を将来にわたって安定的に確保するには良好な森づくりが欠かせない」ことを理解していただいている。

また、都立高校と連携した環境教育を実施し、都市部の住民等が森林保全活動に参加するきっかけを提供するとともに、環境意識の醸成を図っている。

多摩川水源森林隊の活動については、活動地の提供を呼び掛けるため、地元町村の協力を得るほか、活動の様子を見た森林所有者から直接依頼を受けることもあるなど、活動の機会が広がり地元で定着しており、地域の森林再生に大きく貢献している。

[団 体]

とくていひ え い り かつどうほうじんさがみはら
特定非営利活動法人相模原こもれび

所 在 地 神奈川県相模原市

代 表 者 理事長 ^{たかはし たかこ}
高橋 孝子

＜功績の概要＞

同団体は、昭和 48 年に近郊緑地特別保全地区に指定された「木もれびの森」を活動拠点とし、自然環境の保全と子どもの健全育成に寄与することを目的として、広く自然環境保護の普及啓発活動に取り組んでいる。

平成 18 年に相模原市と森づくりパートナーシップ協定を締結し、手入れがなされずにいた「木もれびの森」の下刈りや間伐等を進め、環境の改善に尽力した結果、現在では、多様な動植物が生息・生育する森として保全されている。

また、ジュニアボランティアの育成や近隣小・中学校の環境学習への協力、地域企業のCSR活動への支援、自然観察会や行政等との協働事業の実施等を通じ、広く市民に自然と触れ合う機会を提供することで、自然保護意識の醸成や新たな担い手づくりに大きく貢献している。

平成 26 年には、森の変遷や森に生息・生育する様々な動植物等を紹介した「木もれびの森ガイド」を市との協働事業により作成し、森への関心を高め、来訪者の増加につながることで、緑地保全意識の普及に貢献した。

このほか、「水とみどりの基本計画」の策定や、地球温暖化対策、生物多様性の保全、まちづくり等に幅広く参画し、地域における自然保護の推進に大きく貢献している。

ナチュラルガーデンクラブ

所在地 新潟県見附市
代表者 会長 やじま 矢嶋 こ トモ子

<功績の概要>

同団体は、平成 17 年の設立以来、市内公共用地の緑化活動に取り組んできた。平成21年には「みつけイングリッシュガーデン」の開園とともに活動拠点の場を移し、当該公園(約 2.2ha)の植栽管理(植栽、除草、水やり)のほか植栽物の選定・デザインも行っている。また、当該公園内でのナーセリー活動(育苗出荷活動)では、高い生産技術力とチームワークによって、年間約6万ポットの花苗を種から育て、市内公共施設や緑化活動団体に出荷している。

同団体の活動もあり、当該公園は年間 14 万人を超える方々が市内はもとより市外・県外からも訪れる見附市の代表的な観光拠点として大きな役割を果たすまでに至った。また全国的な園芸雑誌にもたびたび紹介され、「市民団体が管理する公営のイングリッシュガーデン」として県内外から多数の視察研修を受け入れている。

平成 27 年の国土交通大臣表彰受賞後も、当該公園のメンテナンス活動を主体的に実施するだけでなく、近年はその活動経験を活かして市内公共施設、学校、民間の店舗、地域コミュニティ等へ植栽指導等を行い、公民連携の「花と緑のまちづくり」活動といった地域での緑化活動に尽力している。

[団 体]

きりんびーるかぶしきがいしゃ こうべこうじょう
麒麟麦酒株式会社 神戸工場

所在地 兵庫県神戸市

代表者 工場長 後藤 一義
ごとう かずよし

< 功績の概要 >

同工場は、平成9年5月に操業を開始し、翌平成10年に環境ISO14001を取得した。工場建設にあたり、“地域との共生”を掲げ、自然や周辺環境への影響に配慮し、ビオトープを工場に設置している。

地域の絶滅危惧種を保護育成するレフュジアビオトープとして、カワバタモロコヤトキソウなどを育成しており、ここ数年のカワバタモロコ採取数が約1,000匹弱で安定するなど、定着に成功している。また、ビオトープを見学できるツアーを実施し、見学来場者へ環境の取組を説明したり、地域の小中学校などに環境学習会の場としてビオトープを提供したりするなど、地域との環境コミュニケーションを積極的に推進している。

このほか、平成26年から、環境問題解決への取組等を伝える「ビオトープ通信」の発刊、平成28年からは、地球シミュレーター「触れる地球」を設置し、主に小学生を対象とした環境学習会に使用するなど、新たな取組も行っている。

さらに、同工場の従業員等が水源地域の山で苗木の植樹などを行う「水源の森づくり活動」の実施や、平成29年5月には「水源保全に関する取り組み」として、神戸市と「千苺貯水池 水源涵養に関する協定書」を締結するなど、工場外の地域の環境保全活動にも尽力している。

[団 体]

ひがしひろしましりつとよさかちゅうがっこう
東広島市立豊栄中学校

所在地 広島県東広島市
代表者 校長 ふじた よしのり 藤田 佳典

< 功績の概要 >

同校は、「お互いを認め合い、規律正しく『学び・やり切る生徒』の育成」を教育目標に掲げ、学校の重点的な取組の一つとして学校緑化活動を位置付けている。学校の教育活動全体を通じて継続的な緑化活動を展開し、生徒の生命尊重の心・責任感・自主性・公共心を育てるとともに、自己肯定感の高揚や環境問題の解決に向けた行動を促してきた。

活動は学校内に留まらず、全校生徒・教職員・PTA・森林組合・地域が連携して、校内外の美化活動や緑化・育樹活動に積極的に取り組んでおり、地域と協力して植樹された学校庭園の様々な樹木に親しむとともに、美しい地域づくりや地域活性化にも貢献している。

また、小学校やこども園と一緒にシイタケ栽培や花の育成、福祉施設等への花の定植・進呈等を行っており、異年齢者との交流、地域活動を通して社会貢献の心を育む活動へとつながっている。

さらに、山間地域に位置する学校という特色を生かし、地域住民と交流をしながら、ヒノキの植林や間伐材を利用し製作したベンチの設置など、里山保全活動にも取組を発展させている。地域の里山の現状と課題について考え、解決を図っていく実践的な活動を通じて、里山を守る思いを継承している。

[団 体]

かいどう じっこういいんかい
コスモス街道づくり実行委員会

所 在 地 佐賀県武雄市

代 表 者 ひがしかわのぼり
東川登公民館館長 そうだ ゆきのり
早田 幸徳

< 功績の概要 >

武雄市東川登町では、平成5年に同実行委員会を立ち上げ、毎年、同町内の市道等の路肩6kmに、コスモスを植える活動を行っている。

実行委員は 54 名だが、6月末の種まきに始まり、7月苗の定植、10月の歩こう会、11月の撤去まで、追肥や除草作業など含めると1年間の活動の参加者は延べ 1,100 人を数え、東川登町総出の活動となっている。

この活動は、平成 29 年には活動開始から 25 年を迎え、新聞、テレビなどにも取り上げられており、平成6年に「全国花いっぱいコンクール」において運輸大臣表彰、平成 10 年に「全国『みどりの愛護』のつどい」において建設大臣から感謝状を、平成 25 年には「道路ふれあい月間」において国土交通大臣表彰を受けるなど、広く認知、評価されている。

また、この活動は子どもから大人、老人を含め全ての町民で事業に取り組むことで、潤いと安らぎのある生活環境づくりを行うとともに、お互いの交流を深め活気あるまちづくりに貢献している。

このほか、コスモスが満開の時期にはコスモス街道歩こう会を実施し、町内・市内はもとより県内外からたくさんの方が散策に訪れている。